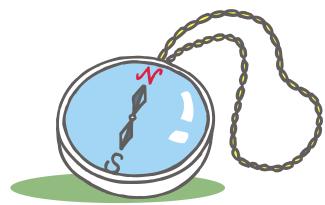


# 羅針盤



第34号

令和3年(2021年)2月1日(月)

## ◆ 今年の「節分の日」は2月2日

今年の「節分の日」は、2月3日ではなく、2月2日です。実は、「節分の日」というのは、立春の前日ということになっていて、今年の立春が2月3日となっているため、「節分の日」が2月2日となっています。このように、2月3日が「節分の日」となるのは実に124年ぶりの出来事だそうです。では、そもそもこの立春は誰が決めているのかと言えば、日本の天文学の中核を担う研究機関である国立天文台が決めています。「暦書」の編製を手掛けている国立天文台では、毎年2月の最初の官報で翌年の暦要項（れきようこう）を発表しています。主な内容は、国立天文台で推算した翌年の国民の祝日、日曜表、二十四節気および雑節、朔弦望（月の満ち欠け）、東京の日出入、日食・月食などだそうです。暦（こよみ）により天体の運行を推算し、暦象年表の発行や暦要項の発表を行う役割がある国立天文台の暦（れき）計算室によると、「節分の日」が2月2日になるのは1987年（明治30年）2月2日以来の124年ぶりの出来事になるということだそうです。季節のめぐりを表す、いわゆる1年とは1太陽年のことで、365.2422日と1年365日の差から約6時間ずつ遅くなります。一方、うるう年には4年前より少し早くなるというパターンとなるため、しばらくの間は、2月4日に定着していたはずの立春の日が令和3年には、2月3日と移ることとなり、その前日である「節分の日」も運動して、2月2日に移ったというわけです。



## ◆ 準備は万端ですか？

始業式にもお話しましたが、3年生は進学に向けて、1・2年生は進級に向けて、残すところ後2か月となりました。それぞれの目標や目的に向けて、準備は整ってきてているでしょうか。もしも、今日の前に大きな森があって、その森の木を8時間で伐（き）りなさいと言われたとき、皆さんならいっただどうしますか。とりあえずは、手に斧（おの）を持って1本ずつ伐り始めるのでしょうか。第16代アメリカ合衆国の大統領エイブラハム・リンカーンは、「私は、最初の6時間は木を伐るための準備に使い、残りの2時間で木を伐ります。」と答えたそうです。そして、さらに彼は、「準備をせずにいきなり木を伐り始めると途中で斧が切れなくなったので・・・などの、できなかった理由をつくってしまいます。」と言ったそうです。これと同じようなことを、かつて大リーグで大活躍したイチロー選手も「準備をするのは、失敗の言い訳となる事がらを一つひとつ失くしていくことです。失敗する言い訳がなくなった時、準備が完了した」と僕は考えていますと言っています。では、皆さんはどうですか。実行に移す前に、できなかった理由を考えたりしてはいませんか。散歩のついでに富士山に登ることがないよう、準備を万端に整えることを忘れることなく、自分の掲げた目標に向けて着実な歩みを進めてもらいたいと思います。